

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】（中学校）

都道府県名	青森県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	三沢市立第一中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	5	2	16	35
生徒数	138	152	161	3	454	

II 研究の概要

1. 研究主題

「基礎・基本の定着を図る指導法の研究」 ～評価の工夫を生かして～
-------------------------------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

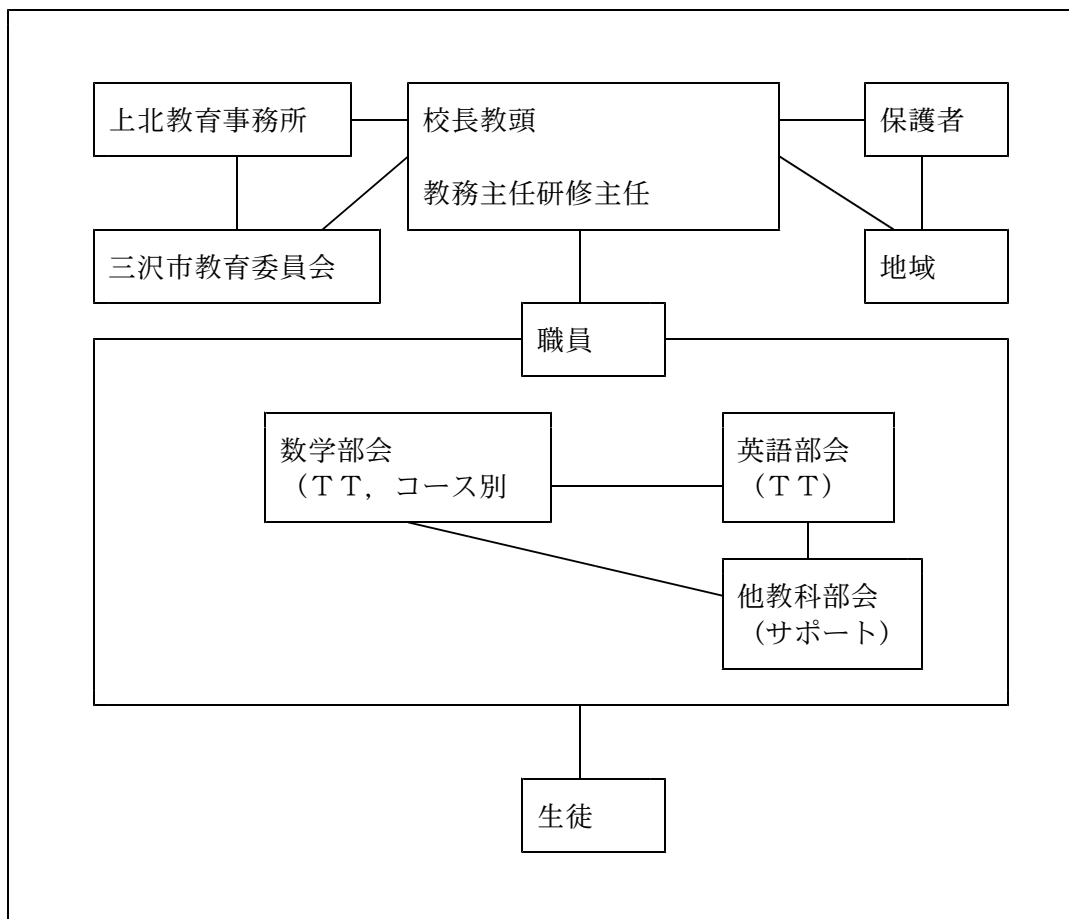
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生・数学</li> <li>・ 2年生・英語</li> <li>・ 3年生・数学、英語</li> </ul> <p>○生徒の理解度及びつまづき状況を把握しやすい教科であるため。 ○理解の度合いが個々の取り組み状況や意識面に大きく反映する教科であるため。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>○テーマ 「基礎・基本の定着を図る指導法の研究」 ～評価の工夫を生かして～</p> <p>○研究の見通し 一人一人の生徒に、学習の見通しをつかませ、規準を明確にした評価の工夫を示すことにより、生徒は意欲をもって学習にのぞむことができる。</p> <p>○研究の内容・方法 【1学年数学】 全学級全時間をチームティーチング（以下TT）で指導し、年度末には1学級を2コースに分けて、それぞれのコースに教師がつき指導する。 【2年英語】 全学級全時間をTTで指導している。 【3学年数学】 全学級全時間をTTで指導している。 【3学年英語】 全学級週1時間をTTで指導している。</p>
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成 16 年度	<p>○テーマ 「基礎・基本の定着を図る指導法の研究」 ～評価の工夫を生かして～</p> <p>○研究の見通し 一人一人の生徒に、学習の見通しをつかませ、規準を明確にした評価の工夫を示すことにより、生徒は意欲をもって学習にのぞむことができる。</p> <p>○研究の内容・方法 【1学年数学】 全学級全時間をTTで指導し、年度末には1学級を2コースに分けて、それぞれのコースに教師がつき指導する。【2年英語】 全学級全時間をTTで指導する。</p>
----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 研究推進体制



### Ⅲ平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

- ・各教科部会において、テーマを設け、事前・事後の検討会をもち、授業研究を中心に取り組むことができた。
- ・各教科部会ごとに「評価規準」の見直しを図り、評価のあり方や仕方について共通理解を図りながらすすめることができた。
- ・県総合学校教育センターなどへの積極的な受講や外部研修会や先進校視察をおこなうことができた。

##### 【英語部会より】

- ・英作文や個別チェック（評価）が必要なスピーキングテスト、リーディングテストの時など、1人1人に丁寧にあたることができた。
- ・授業に前向きに取り組めない生徒の支援ができ、全体として授業態度が良くなった。
- ・TTによる利点は、次のことがあげられる。
  - ①比較的自然な対話場面を提示できる。
  - ②個人に丁寧な指導ができる。（特に英作文や会話など）
  - ③役割を分担することで時間短縮ができる。（板書と説明など）
  - ④指導過程の工夫によっては、1時間の中で交互に説明したり、活動を交互に担当したりすることで「声」が変わるので、指導者が1人の時よりも生徒の集中力を持続させることができる。
  - ⑤③④両方の相乗効果によって、1人で指導するときよりも、場合によっては1.5倍ほどの内容を指導することができる。

##### 【数学部会より】

- ・教室に2人指導者がいることで、生徒の質問に素早く対応することができた。
- ・生徒が気軽に質問するようになった。
- ・作業や思考が止まっている生徒に、こまめに指示やヒントを与えることができた。
- ・ほとんど毎時間、TTができたことで効果的に指導ができた。

#### 2. 今後の課題

- ・評価の具体的な手段、方法の工夫を明らかにする。
- ・学習意識調査の実施と分析・考察から学習強化週間の力点を設定する。
- ・学習活動に応じたTTの体制を工夫する。

##### 【英語部会より】

- ・授業の打ち合わせ等をもう少し密におこない、T2も毎時間の指導過程や内容を事前に把握できるようにする。
- ・T1、T2の役割を明確にし、題材や指導内容によっては、T2がもう少し内用に深く関わる場面をもつ。
- ・他学年から入った場合、その学年の方針を密に確認し、同じ指導（生徒指導を含む）であたれるようにする。（その時々での取り組みなどを把握していた方が授業に入りやすい。）

##### 【数学部会より】

- ・今年度は時間割でTTになっているとき以外でも、TTで授業に来てもらえたが、組む相手により、また、持ち時間数により来年度以降も可能とは限らない。その場合TTの効果は十分に期待できず、TTよりもTT解除で持ち時間数を減らす方が、指導の効果があると思われる。

#### IV 学力把握のための学校としての取組

- ・ 前期中間テスト（7月）
- ・ 前期期末テスト（9月）
- ・ 後期中間テスト（12月）
- ・ 後期期末テスト（2月）
- ・ 観点別標準学力検査（3月）
- ・ 各教科ごとに観点別の評価テスト（単元ごと、随時）

※その時点での学力は把握できるが、学力の変容を知るところには至っていない。

#### V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 三沢市教育委員会要請訪問（授業研究会） 15年6月11日 英語
- ・ " 9月12日 数学

## 平成15年度三沢第一中学校校内授業研究会の記録

H15. 6. 11 (水)

助言者 川村指導主事

授業者 荒井幸子 馬場香里

### 1 授業者から

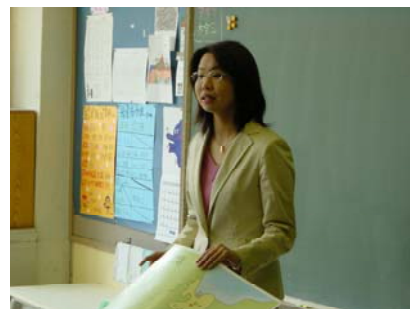
#### ◇荒井T (T1)

- ・1年時からTTなので、授業形態には慣れている。
- ・読みとって書く作業については、随時取り入れているので抵抗はない。
- ・題材については、英語を通して幅広く学ぶという流れになってきている。
- ・バングラデシュという後進国が舞台となっていて、内容はそんなに難しくないが、発展途上国についてももう少しつっこんでみた。
- ・生徒は導入の復習ではあまり反応がなかったが、Pre-readingはよく聞いて考えて答えていた。
- ・ワークシートは熱心に取り組んでいたのですが、時間をのばしたが、その分感想の時間が足りなくなった。
- ・ポイント制にし、しっかりと掲示(板書)したことで、刺激になって取り組みが良くなった。
- ・日本語だけ(評価C)は3人で、評価Aが多かった。
- ・多い子は6~7行、5行以上書いた子が10人以上いた。
- ・よく最後のまとめができた。



#### ◇馬場T (T2)

- ・3年生になると、文が難しく、内容も社会問題や国際的な話題が多く、どうしても生徒の反応が弱くなり、会話も少なくなるので、意欲的に会話をさせたい(実践的コミュニケーション)。
- ・T2として答えを引き出せるようにしたい。
- ・英語を通して世界のことを知ろうというねらいでやっている。
- ・資料提示が前時とうまくつながった。(ビデオを見たことが心に残っていた。)
- ・評価規準をはっきりさせたので、生徒が意欲的に取り組めた。
- ・TTをもっと生かすには、



### 2 研究協議

#### (1) 評価について

- ・流ちょうな英語で進められ、子どもたちはよく聞き取っていたと 思う。
- ・TTのやりとりがよく、聞き取りの力がつく。
- ・評価規準を見やすく、分かりやすく板書したので、それを目標にして子どもたちはよくがんばっていた。提示がよかったので意欲的に取り組めた。
- ・規準がよかった。
- ・国語の場合(作文)、9割でA、6割B、それ以下Cなどできるのでは。
- ・同じ言語教科として似ている部分がある。
- ・内容がなくても行数を書いていればAになるのか？
- A°などA以上があるなど臨機応変に対応する。
- ・TTで授業していないクラスは1人で評価することになるが、差異は出ないか？
- TTで評価の違いが出ないように、かなり打ち合わせをする。
- ・→「話す」と「読む」は一緒に評価しない。

## (2) TTについて

- ・「書く」「読みとり」には上位、下位への対応ができ、絶対いい。
- ・「話す」は一人でもよいが、「会話」はTTがよい。
- ・興味を引かせるTTは数学でも使えないか。
- ・TTにより全員に目を配ることができ、見るTによって視点も違ってくるのでよい。
- ・昨年TTだったが、今年はTになり、目が届かず指導も徹底できない。
- ・うまく分担しながらやっている。
- ・TTの活用法はいろいろな資料がある。



## (3) その他

- ・教科書は変わってきている。進歩している。
- ・英文ないようだけでなく、それから何かを考えさせるような授業となっているので、昔とは違ってきていると改めて感じた。
- ・Pre-readingのところは、知っている単語を必死に聞き取ろうとしていた。
- ・生徒たちが学ぶべきところをきちんと学べるような流れになっていた。
- ・社会でも評価規準の参考にしたい。

## 3 助言者から

- ・書くことに抵抗がないクラスである。
- ・TTでのウォームアップに慣れていて、聞くポイントが分かっている。
- ・入試では、ヒアリング（コミュニケーション能力）が重視されている。
- ・TTのかけあい、テンポのよい授業であり、英語があふれるクラスである。
- ・前時のVTRの想起、ピクチャーカードなどにより、いろいろな情報をもとに書く内容が豊富だった。
- ・意欲を喚起するよい内容だった。
- ・TTは読みとり書く作業では個に応じることができ効果的である。
- ・生徒指導的対応にも有効である。
- ・聞く、話すではもっと活用できるのでは。
- ・指導案で、評価規準は（ア）、（イ）等明示したほうがよい。
- ・評価規準がはっきりしたことで、子どもたちの意欲につながり、下位の子もすらすら書いていた。
- ・評価することで、その後の学習を考える（フィードバック）手助けになる。
- ・やる気のある子がいい成績になるのではなく、成績の上がる子がやる気が出る。
- ・個に応じた評価もある。Aの上、A<sup>o</sup>A<sup>+</sup>など。
- ・実践的コミュニケーションが重視されているが、しっかりした評価規準をもとにして、読む、書く、聞く、話すはバランスよく育成されるのが一番である。

## 4 校長から

- ・各教科でも、指導して頂いたことを取り入れて生かせるように努力してほしい。
- ・授業研究をどのように位置づけるか、提案したい内容にはどんな意味があるのか。
- ・普段通りの授業をやればと思っていたが、自分の最高の能力、レベルで授業研究をやってみるのも大事である。
- ・授業の力を育てるように、がんばらなければならない。
- ・今日の授業がよかったとはまだ分からない。自分のねらったことに対して本時の感想の分析や通過率等を加味してみて、よかったとか決まるのでは。
- ・発言が消極的である。研究協議の発言した内容がその面的に、内面的に見抜けるか) 本音で言って自分のレ



人のレベル。どれだけ授業を見られるか、(表  
レベルを確かめることが大切である。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】               3学級以下               4～6学級  
                                  7～9学級               10～12学級  
                                  13～15学級             16学級以上

【指導体制】               少人数指導               T. Tによる指導  
                                  その他

【研究教科】               国語               社会               数学               理科  
                                  外国語               音楽               美術               技術・家庭  
                                  保健体育               その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無